

## 研究科の教育理念と目標



- ・現代の諸問題に対処するための総合的・地域研究の推進
- ・アジア・アフリカ地域の「深い理解」と国際的視野をもって諸問題を適切に把握・判断・解決にあたる先導的な地域の専門家を養成

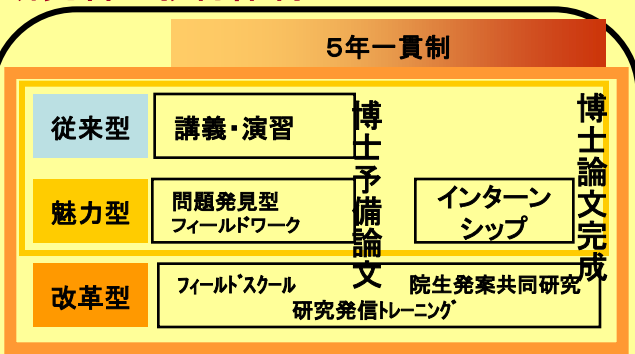
## 研究科における教育の特色

- ・フィールドワーク(臨地研究)を核にした教育研究
- ・5年一貫制の博士課程による教育
- ・段階的みきわめによる論文指導
- ・学生が選択する複数指導教員制

## 研究科の課題

国際機関やNGOなど、実務の分野で活躍する修了生の更なる輩出

## 研究科の教育体制



\* 魅力型:「魅力ある大学院教育イニシアティブ・プログラム」によって実現した教育体制

\* 改革型:「大学院教育改革支援プログラム」によって実施予定の教育体制

## 社会に貢献するアジア・アフリカ 地域専門家養成モデル



研究と実務のインターフェイス

## プログラムの4つの柱

### 1. フィールド講義・演習

アジア・アフリカの現場において、その地域に密着したテーマで講義と演習をおこないます。講師はユネスコなど国連機関関係者や、JICAの専門家、Oxfamや日本国際ボランティアセンターなどNGOの実務家を招き、本研究科教員、現地提携大学の教員が協同して実施します。講義と演習への参加者は主として博士予備論文(修士論文に相当)を提出する前の院生を想定しています。

\* 2009年度報告:8月3~12日インドネシア(担当教員:岡本正明、参加者7名)、8月29日~9月7日カメルーン(担当教員:木村大治、参加者13名)

\* 2008年度報告:1月11~19日ベトナム(担当教員:伊藤正子、参加者8名)、2月14~27日エチオピア(担当教員:重田真義、参加者9名)、3月14~22日ネパール(担当教員:藤倉達郎、参加者15名)



2009.2月エチオピア・フィールドスクール



2009.9月カメルーン・フィールドスクール



## 2. 院生発案共同研究

参加者は、主として博士予備論文を提出済みの院生を想定しています。院生はそれぞれの専門地域で現地調査を含む研究をおこない、海外もしくは国内で共同研究の報告会を組織・開催します。

\* 2009年度報告:

(1)「アジアとアフリカにおけるマイノリティの諸相」8/29開催、於カメルーン

(2)「アジアとアフリカにおけるケアの実践と近代学校教育」9/1,9/6開催、於カメルーン

(3)「熱帯地域の人間活動と生態資源の動態」9/3開催、於カメルーン

(4)「南アフリカにおけるミオンボ林とモパネ林の広域比較研究」9/11報告会開催、於マラウイ

(5)「自己構築の場としての芸能空間」12月12日開催、於立教大学

(6)「アジアにおけるシャーマニズムの諸相」3月5日開催、於タイ

\* 2008年度報告:(1)「ケアをめぐる実践」、(2)「大衆芸能からみる都市の世界」、(3)「アフリカにおけるイネ科作物の多様性と土地利用の変遷に関する比較研究」、(4)「東南アジア島嶼部住民と生態資源のかかわりの現在」

## 3. 研究発信トレーニング

日本でのフィールドスクールとして、英語によるプレゼンテーション、プロポーザル作成トレーニングをおこないます。

\* 2009年6月27日:発表会・講評会(稲盛記念館3階中会議室、14:00~17:00)英語による発表(3名)、リサーチプロポーザル(14名)

\* 2008年12月4日発表会・講評会:英語による発表(2名)、リサーチプロポーザル(10名)

## 4. 地域研究教育教材の開発

本研究科教員が中心になって、現地語新聞や公文書の読解、臨地調査の過程で必須の専門用語、現地独特の知をあらわす概念語などを採録し説明を付した用語集を編集します。

## このプログラムについて



このプログラムは、研究と実務を架橋することを目的に、海外で既に展開しているフィールドステーションを利用してフィールドスクールを開校し、そこを拠点に院生を送りだしたり、外部の実務家を迎え入れたりするものです。このプログラムは、2008年度に採択され、2011年3月31日まで実施の予定です。



2009.1月ベトナム・フィールドスクール



2009.3月ネパール・フィールドスクール



2009.8月インドネシア・フィールドスクール

## 研究科のフィールドステーション



\* 2009年12月以降にベトナム・フィールドステーションを開設予定です

# 研究と実務を架橋する フィールドスクール

社会に貢献する  
アジア・アフリカ地域専門家の養成  
Oct. 2008 ~ March 2011

## 問い合わせ先

郵送先: 〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学 総合研究2号館4階AA432  
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
大学院教育改革支援プログラム支援室

TEL: 075-753-9654 FAX: 075-753-9655

E-mail: [kaikaku@asafas.kyoto-u.ac.jp](mailto:kaikaku@asafas.kyoto-u.ac.jp)

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kaikaku/index.html>

支援室: 〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学 高分子館2階大会議室  
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
大学院教育改革支援プログラム支援室



京都大学大学院  
アジア・アフリカ地域研究研究科

## プログラムの4つの柱と実施体制

1. フィールド講義・演習
2. 院生発案共同研究
3. 研究発信トレーニング
4. 地域研究教育教材の開発

プログラム実施委員会

フィールドワーク・  
インターンシップ支援室

全研究科教員の参加と協力